

## 2月17日 ふれあい月間の意味 ―思いやりの心を―

この前、立春の話をしました。24節気では、2月18日が次の季節になります。次は「雨水」（うすい）です。この字には、「雨」と「水」という漢字が使われています。なぜこの漢字が使われているかというのと、今まで降っていた「雪」が「雨」に変わってくる、「氷」が解けて「水」になる、というように季節がだんだんと和らぎ春に近づいていることを表すからです。ちょうどこの時期から農業が始まるといわれています。

さて、2月は最後の「ふれあい月間」の月です。「ふれあい月間」は1年間に3回あります。1学期は6月、2学期は11月、そして3学期は2月です。それぞれのふれあい月間の時に、その意味や気を付けることを皆さんに話してきました。

例えば、いじめや差別は絶対にしてはいけません、ぶったりけったりする暴力や相手を傷つける言葉の暴力を使わないようにしましょうなどを伝えてきました。これは、皆さん一人一人が安心して楽しい学校生活をおくるためです。そして、やられてしまった人は深い心の傷をおってしまうこと、また、やってしまった人の心にも、人を傷つけてしまったという後悔が残ってしまうこと、両方の心を傷つけてしまうことも伝えてきました。

今までのふれあい月間では、してはいけないことを中心に話をしてきましたが、この2月は最後のふれあい月間です。今までとは違って、進級や進学につながる「ふれあい月間」にしたいと思います。皆さんは、相手の心や体を傷つけてしまう、してはいけないことは分かっています。してはいけないことは、自分からストップをかける、周りの友達も注意をすることで減らしていきましょう。

そして、この2月は、自分がしてもらって嬉しい気持ちになることを周りの友達にしていきたいと思います。

してもらって嬉しい気持ちになること、どんなことがあるでしょうか、考えてみてください。そうですね「ありがとう」「ごめんね」というあいさつ、「いっしょに遊ぼう」「いっしょにやろう」といったお誘い、「あなたのいいところはやさしいところだね」というほめ言葉、失敗しても「どんまい」「いいよいいよ」と許す気持ち、このようなことは「思いやりの心」と言って、心が温かくなりますね。「思いやりの心」で自分から周りの友達に接してみてください。

2月の最後のふれあい月間では、温かく、「思いやりの心」に満ちたふれあい月間にしていきたいと思います。